

共同薬局だより ～そよかぜ～



2010/9/16
復活 6 号

特集：水ぼうそう

しばらくご無沙汰していた「そよかぜ」ですが、疾患特集号を随時更新する形で復活します。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

(水ぼうそう、水痘とは?)

水痘(すいとう、varicella)とは、ウイルス感染症の一種で、一般に水疱瘡(みずぼうそう)としても知られています。VZV(水痘帯状疱疹ウイルス)による感染症です。季節的には毎年 12 - 7 月に多く 8 - 11 月には減少し、罹患年齢の多くは 9 歳以下です。成人発症では重症化しやすいです。



一般に 1 度かかると 2 度とかからないと言われていますが、治癒後も神経節などに水痘・帯状疱疹ウイルスは潜伏しており、免疫低下時や疲労・ストレス時に再活性化し帯状疱疹を発症することがあります。

(感染経路)

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)に感染した後、14 日程の潜伏期間の後、発熱、倦怠感などと共に、体幹から発赤が出現し、顔面、手足に、広がります。発赤は、12~24 時間後には、丘疹から、水疱を形成し、やがて、痂皮(かさぶた)を形成します。



水痘患者の飛沫(つばや痰など)には、ウイルス(VZV)が含まれています。呼吸から排出された飛沫(droplet)が、空気中を漂い、経気道的に感染を起こします。感染力は非常に強いですが、水泡に直接触れても皮膚から感染することは無いようです。

発疹出現の 1~2 日前から出現後 4~5 日、あるいは痂皮化するまで伝染力があります。

(発疹→水ぶくれ→膿疱→かさぶたへと変化します)

特徴は、強いかゆみのある発疹が出ること。熱は高く出ることも、全く出ないこともあります。まず赤い米粒大の発疹が 1 つ 2 つあらわれることから始まり、半日から翌日までに全身にあらわれ、早く出た発疹からしだいにプチプチと水を持った水疱へと変化し、その後 1~2 日で膿疱(うみのような白っぽい濁った液を持つ発疹)へ変わります。赤い発疹は虫刺されにも似ているので、水疱が



できて初めて病気に気づくケースもあります。

発疹は胸や背中、おなかなどにバラバラと出始めますが、しだいに顔、手足、手のひらや足の裏、口の中、髪の毛の中、陰部にまで広がっていきます。発疹はかゆみが強いため、子供の場合、かなり機嫌が悪くなります。

3～4日たつと、水疱は乾いて黒いかさぶたになり、かゆみも治まっていきます。かさぶたが取れると皮膚の色素が多少抜けたようなあとが残りますが、成長するに従ってだんだんと目立たなくなります。



(どんな治療をするの?)

①皮膚に対して

外用薬としてフェノール亜鉛華リニメント(カチリ)を用います。薄い水ぶくれをコーティングして保護する役目があります。厚く置くような感じで塗ります。水溶性なので水で軽く拭くと取れてしまいます。水ぶくれが壊れたら、抗生物質の外用剤を用いることもあります。引っ搔くと感染の痕が残ってしまうので、皮膚と手はせっけんと水で洗い清潔に保つ、爪は引っかき傷をつくらないように出来るだけ短く切る、衣類は清潔で乾いた状態に保つ、などを心がけます。

②病原体に対して



抗ウイルス剤としてアシクロビル(ACV)があり、重症水痘、および水痘の重症化が容易に予測される免疫不全者などでは第一選択薬剤となっています。一方、免疫機能が正常と考えられる方の水痘についても、ACVの経口投与は症状を軽症化させるのに有効であると考えられており、その場合、発症48時間以内に使うことが勧められています。

この薬剤を使うと、使わなかった場合に比較して、およそ48時間程度、罹病期間を短くすることが出来ます。(必ずしも使ってすぐに効くと言ふ訳ではありません)



(学校や保育園には? 予防法は?)

学校保健法での取り扱い: 第二種の伝染病に属します。登校基準は以下の通りです。

「すべての発疹が痂皮化するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」

予防法としてはワクチンがあります。水痘ワクチンは毒素を弱めたワクチンなので、接種を受けた子どもでも感染することが稀にあります。しかし、予防接種を受けておけば、かかっても軽くすみます。

参考資料) 国立感染症研究所感染症情報センターHP, goo へ化「水痘」、メルクマニュアル日本語版「水ぼうそう」